

課題番号	Q21K-03
課題名 (和文)	技術の軍事化とコントロール——19 世紀末から 20 世紀初頭の技術の軍事的選 択規範の実証研究
課題名 (英文)	Technologization and Control of the Military: An Empirical Study of the Norms of Military Choice of Technology in the Late 19th and Early 20th Centuries
研究代表者	所属 (学部、学科・学系・系列、職位) 東京電機大学 理工学部 共通教育群 准教授 氏名 中島 浩貴
共同研究者	所属 (学部、学科・学系・系列、職位) 東京電機大学 理工学部 共通教育群 講師 氏名 小沼 史彦
	所属 (学部、学科・学系・系列、職位) 大谷大学 文学部 講師 氏名 前田 充洋
	所属 (学部、学科・学系・系列、職位) 帝京大学 経済学部 講師 氏名 清水 雅大

研究成果の概要 (和文)

本研究は、19 世紀末から 20 世紀初頭を中心とし、さまざまな技術が軍、軍人、企業によって取捨選択されるなかで、軍事的用途に用いられるようになった状況を、軍事史、企業史、国際法を用いた学際的分析視覚から研究した。どの軍事技術が実際に軍事目的に利用されるべきなのか、その取捨選択は技術自体ではなく、選定者である軍人や軍組織、そして企業が行っていた。このヒューマンファクターによる技術の選択過程に着目し、主に日本とドイツに注目することによって特定の技術が軍事目的で選別されていたのかを実証的に明らかにした。

研究成果の概要 (英文)

This research focused on the period from the end of the 19th century to the beginning of the 20th century, and studied the situation in which various technologies came to be used for military purposes as they were discarded and selected by the military, military personnel, and corporations, from the perspective of interdisciplinary analysis using military history, corporate history, and international law. The selection of which military technologies should actually be used for military purposes was not made by the technologies themselves, but by the military personnel, military organizations, and companies that selected them. By focusing mainly on Japan and Germany, We were empirically clarify whether specific technologies were selected for military purposes.

1. 研究開始当初の背景

本研究は、19世紀末から20世紀初頭を中心とし、さまざまな技術が軍、軍人、企業によって取捨選択されるなかで、軍事的用途に用いられるようになった状況を、軍事史、企業史、国際法から明らかにすることを意図していた。軍事技術が軍事目的に利用される取捨選択は技術自体ではなく、選定者である軍人や軍組織、そして企業が行っている選択過程に着目し、主に日本とドイツに注目した。

2. 研究の目的

19世紀中盤以降の戦争のなかで技術的進歩が戦争の勝敗を左右する問題との認識は広く共有されていた。政治家、軍人、企業家、文筆家のいずれも、新しい技術を積極的に導入することの重要性を認識していた。本研究の目的は、特定の技術が選択され、受容される背景、もしくはその技術が拒絶される関連性を実証的に明らかにすることである。まずは日本とドイツを中心として、19世紀以降の技術に関する認識がどのように移り変わっていったのかに着目し、近代史、軍事史、技術史、企業史、国際法の観点から、共同研究体制で行った。

3. 研究の方法

- ① 歴史的観点から見た軍事技術の選択規範の提示 (研究代表者 中島浩貴)

近年の科学技術社会論、ドイツの「新しい軍事史」の方法論に着目することにより、個別実証的な事例研究によって技術の選択規範に関する新しい視点から戦争とテクノロジーの問題を技術決定論に限定されない、社会的に構築される過程を検討した。

- ② 企業史的観点からの軍事技術の選択規範の提示 (共同研究者 前田充洋)

企業と軍の技術をめぐる相関関係を視野に入れることで、技術史に新しい視点を提示することができるという観点に立ち、工学研究が軍事的な受容に応じて構築されていった状況を検討した。

- ③ 国際法的観点からの技術のコントロール規範の提示 (共同研究者 小沼史彦)

国際法が軍事技術をさまざまな形でコントロールしよ

うとする過程に注目し、第一次世界大戦以前の軍事技術に関する認識がどのように変化したのか、あるいはしなかったのかを問うことで、この時代に限定されない軍事技術の国際法的コントロールの可能性と限界、当時の制約と現代との共通性を整理した。

- ④ 日独間の軍事技術の輸入・移転に関する期待とイメージ (共同研究者 清水雅大)

技術先進国ドイツのイメージが日本側でどのようにして受け入れられ、論じられたのか、あるいはそのような状況がおかれた背景にどのような社会的問題があったのかについて分析した。テクノロジーへの期待が日独関係においていかなる役割を果たしたのかを検討した。

4. 研究成果

軍事的な技術選択、評価の過程において、他者との比較や技術への期待や願望といったヒューマンファクターが相当程度大きな役割を果たしていることが個別研究のなかで実証できた。また、近代社会全体を俯瞰するうえでも、本研究が広範な視座を提供するものであり、今後は19世紀末から20世紀初頭に限定されず、さらに時間軸を広げた研究の拡大を予定している。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計1件)

- ① 中島浩貴「第一世界大戦前の航空機言説と軍事的技術評価の形成」戦略研究, 戦略研究学会, 2023/3/10, pp.3-19.

[学会発表] (計4件)

- ① 中島浩貴「第一次大戦前の軍事と技術」日本クラウゼヴィッツ学会研究大会, 2022/10/22, Zoomでのオンライン報告.
- ② 前田充洋「オットー・ブッデと工学研究——19-20世紀転換期ドイツにおける技術職員とコマンド・テクノロジー」同上.
- ③ 清水雅大「第二次世界大戦期の日本におけるドイツ・イメージ: 戦争と技術の観点から」同上.
- ④ 小沼史彦・川西宗勝「兵器技術の進展と国際社会の普遍化」国際法教育・普及研究会, 2023/3/19, Zoomでのオンライン報告.